

血液透析によるインスリン抵抗性改善の可能性

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

○船越 哲 大畑裕子 中村麻美 河野 舞 藤森勝敏 林田征俊 河津多代 一ノ瀬浩 佐々木修 澤瀬健次
橋口純一郎 原田孝司

【目的】

糖尿病透析患者において、血液透析前後の CPI の変化を調査し、インスリン抵抗性に関連する因子を検討する。

【方法】

当院で維持透析中の 2 型糖尿病患者で、インスリン治療を行っていない 19 名の、中 2 日の透析日・透析翌日の空腹時に採血し血糖値および血中 C ペプチドから CPI を算出、CPI の変化と各血清因子や患者背景との相関を検討した。

【結果】

中 2 日の透析日の朝つまり前回の透析約 40 時間後の平均 CPI は $8.1 \pm 3.3 \text{ ng/mL}$ であり、透析翌日つまり透析約 16 時間後の平均 CPI は $6.7 \pm 2.7 \text{ ng/mL}$ と有意に低下していた。この CPI 低下率は、患者のグリコアルブミン値や空腹時血糖との相関はなく、アルブミン等の栄養状態と正の相関がみられた ($R^2=0.6423$)。

【考案】

血液透析により尿毒素や過剰水分が除去されること等によりインスリン抵抗性が改善されることが報告されているが、実際に透析前後でのインスリン抵抗性の比較の報告はない。今回の我々の結果で、栄養状態の良好な患者において血液透析による CPI 低下が大きく、透析によるインスリン抵抗性改善は全身状態を反映している可能性が示唆された。